

木村英一著

〔東洋學叢書〕

中國哲學の探究

刊行
創
文
社

木村 英一（きむら・えいいち）

昭和5年京都大學文學部卒業。大阪大學名譽教授。昭和56年
歿。著書『法家思想の研究』、『中國民衆の思想と文化』、『中國
的實在觀の研究』（以上弘文堂），『老子の新研究』、『慧遠研究・
遺文篇・研究篇』（編著），『孔子と論語』（以上創文社），『伊藤
仁齋集』（編集・解説）（筑摩書房），『論語』（譯注・解説）（講
談社）

〔中國哲學の探究〕

一九八一年二月二八日 第一刷發行
一九九二年一月一〇日 第二刷發行

定價八七五五圓
（本體八五〇〇圓）

著 者 木 村 英 一

發 行 者 久 保 井 浩 俊
印 刷 者 山 田 隆

發 行 所

株 式 會 社

創

文

社

本 社
假 事 務 所

102 東京 都千代田區一番町一七一三
112 東京 都文京區關口一四四一七
電 話 〇三三三三五四三六一
振 替 東京 二一九二四七二

（著作権者との申し合せにより検印省略）

精興社印刷・徳住製本

ISBN4-423-19222-5

Printed in Japan

目次

論語と孔門——雜考Ⅰ

一 論語における孔子に對する稱呼——子・孔子・夫子・仲尼・君子	五
二 論語に見える徳目の系統——特にその原點としての「仁」について	三六
三 論語に現われた信の概念について	七〇
四 論語に見える徳の諸相について	七五
五 子貢について	八五
六 子路についての管見	一〇〇
七 顔淵について	一〇三
八 孔門の若き秀才たち——子游・子夏・子張・曾子について	一四六
荀子より禮記まで——雜考Ⅱ	

一 讀荀子二則——書誌學的劄記	一三八
二 前漢における禮學の傳受について	一六九
三 禮記の大學篇について	三九

附錄一	大學と中庸	三三
-----	-------	----

附錄二	ジツテと朱子の學	三六
-----	----------	----

老莊と道教——雜考Ⅲ

一	莊子妄言一則——莊子の書の變遷から見た内篇と外・雜篇との關係について	三〇一
---	------------------------------------	-----

二	莊子の卮言	三三
---	-------	----

三	莊周説話を通じて見た莊周の死生觀	三三
---	------------------	----

四	道教と中國の思想	三五
---	----------	----

五	馬王堆出土の帛書老子について	三七
---	----------------	----

中國佛教の周邊——雜考Ⅳ

一	老莊の無と佛教の空とについて	四〇一
---	----------------	-----

二	中國中世思想史上における廬山	四〇二
---	----------------	-----

三	寒山詩について	四〇九
---	---------	-----

四	中國における哲人の詩について——詩と偈との關係より見ての斷想	四一三
---	--------------------------------	-----

比較思想の試み——提唱Ⅴ

一	中國思想史學の對象について	四二
---	---------------	----

二 中國における世界觀・人生觀		五六
三 中國哲學における中庸思想		五二
あとがき		五九
掲載書誌一覽		五〇
索引		一 18

中國哲學の探究

論語と孔門——雜考 I

一 論語における孔子に対する稱呼

——子・孔子・夫子・仲尼・君子——

一

論語の中で孔子を三人稱で呼ぶ場合には、子・孔子・夫子・仲尼・君子の五つの呼び方がある。⁽¹⁾ また二人稱で呼ぶ場合は、子と夫子とが使われている。⁽²⁾ しかし孔子以外の人を呼ぶ場合にも子と夫子とは使われている。これ等の稱呼の使用を検討することは、論語の言葉の史料としての性格の鑑定にいくらか役立つことと思うから、ここで一應論じておきたい。

二

論語の中で、孔子を三人稱で呼ぶ呼び方で、壓倒的に多いのは「子」である。「子曰……」「子以四教……」等枚舉に暇がない。思うに「子」は「孔子」・「曾子」・「有子」・「閔子」等の「子」であって、師匠すなわち先生を呼ぶ美稱としては、普通「子」の上に氏をつけて「何々先生」と呼ぶが、孔門同學の間では「子」と言えば孔子に外ならなかった。そして孔門の弟子同士は、相手を三人稱で呼ぶ場合は相互に對等に字を以て呼び合うのが慣

習であつたであらう。顔淵・子路・子貢・子遊・子夏……等は皆それである。そして今の論語全書の五〇〇に近い章のうちの絶對多數が、三人稱では孔子を子と呼び、弟子達を字で呼んでいるという事實は、論語の主要部分が孔門における師弟の語り合いの語氣を傳えた傳誦に基づくことを示している。

ところで「子」という字は、これを二人稱で使用する場合には、廣く君子の同輩の間で相手を「あなた」と呼ぶ場合に用いられ、論語にも若干その例が見える。また孔子の弟子が孔子を二人稱で呼んで「子」と稱している例もある。これは「先生」と呼ぶ程の意味であらう。そこで先ずこれ等「子」の用例について少しく辨じておこう。(この論文に引用した論語各篇の分章は、便宜上すべて新注本によって、12……で示した。)

1 或謂孔子曰、「子奚不爲政、」子曰、「……」(爲政21)

2 冉求曰、「非不說子之道、力不足也、」子曰、「……」(雍也10)

3 顔淵死、子哭之慟、從者曰、「子慟矣、」曰、「……」(先進9)

4 子畏於匡、顔淵後、子曰、「吾以女爲死矣、」曰、「子在、回何敢死、」(先進22)

5 季子然問、「仲由・冉求可謂大臣與、」子曰、「吾以子爲異之問、曾由與求之問……」……(先進23)

6 季康子問政於孔子、孔子對曰、「政者正也、子帥以正、孰敢不正、」(顔淵17)

7 季康子患盜、問於孔子、孔子對曰、「苟子之不欲、雖賞之不竊、」(顔淵18)

8 季康子問政於孔子曰、「如殺無道、以就有道、何如、」孔子對曰、「子爲政、焉用殺、子欲善、而民善矣

……」(顔淵19)

9 子路曰、「衛君待子而爲政、子將奚先、」子曰、「必也正名乎、」子路曰、「有是哉子之迂也、奚其正、」子曰、「……」(子路3)

- 10 子曰、「莫我知也夫。」子貢曰、「何爲其莫知子也。」子曰、「……」（憲問37）
 - 11 陳亢問於伯魚曰、「子亦有異聞乎？」對曰、「……」（季氏13）
 - 12 子曰、「予欲無言、」子貢曰、「子如不言、則小子何述焉、」子曰、「……」（陽貨19）
 - 13 柳下惠爲士師、三黜、人曰、「子未可以去乎、」曰、「……」（微子2）
 - 14 長沮・桀溺耦而耕、……桀溺曰、「子爲誰、」曰、「爲仲由、」……（微子6）
 - 15 子路從而後、遇丈人以杖荷蓑、子路問曰、「子見夫子乎、」丈人曰、「……」、……（微子7）
 - 16 陳子禽謂子貢曰、「子爲恭也、仲尼豈賢於子乎、」子貢曰、「……」（子張25）
- この十六の章のうちで、5は孔子が季子然を「子」と呼び、678は孔子が季康子を、11は陳亢が伯魚を、13はある人が柳下惠を、14は桀溺が仲由を、15は子路が荷蓑丈人を、それぞれ「子」と呼んでいるのであって、この八つの章では「子」はすべて二人稱の「あなた」である。16は陳子禽が子貢を「子」と呼んでいるのであるが、陳子禽がもし子貢の弟子ならば、この「子」は「先生」であり、もし陳子禽が孔子の直門で子貢の後輩としての友人ならば、「子」は「あなた」であろう。しかし子禽が孔子を「仲尼」と呼んでいるところから見ると、子禽は孔子の直弟子ではあり得ないから、子貢の弟子であろう。次に1は、或ひとが孔子に向って「子」と言っているのであって、「或謂孔子曰……」という言い方から見て或るひとは孔門外の人であろうから、この「子」は「あなた」と解してよい。2は冉求が孔子を、3は從者が孔子を、4は顔淵が孔子を、9は子路が孔子を、10と12とは子貢が孔子を、それぞれ「子」と呼んでいるのであって、この六章はいずれも直門の士が孔子を二人稱で「先生」と呼んだ語氣をもつ。

三

次に、孔子を三人稱で呼ぶ場合、「子」と呼ばないで「孔子」すなわち「孔先生」と呼んだ章は四十二章にのぼっている。

- ① 哀公問曰、「何爲則民服、」孔子對曰「……」(爲政19)
- ② 或謂孔子曰、「子奚不爲政、」子曰、「……」(爲政21)
- ③ 孔子謂季氏、「八佾舞於庭、……」(八佾1)
- ④ 定公問、「君使臣、臣事君、如之何、」孔子對曰、「……」(八佾19)
- ⑤ 哀公問、「弟子孰爲好學、」孔子對曰、「……」(雍也2)
- ⑥ 葉公問孔子於子路、子路不對、子曰「……」(述而18)
- ⑦ 陳司敗問、「昭公知禮乎、」孔子曰、「知禮、」孔子退……子曰、「丘也幸、……」(述而30)
- ⑧ 舜有臣五人、而天下治、武王曰、「予有亂臣十人、」孔子曰、「『才難、』不其然乎、……」(泰伯20)
- ⑨ 孔子於鄉黨、恂恂如也、……(鄉黨1)
- ⑩ 南容三復白圭、孔子以其兄之子妻之、(先進5)
- ⑪ 季康子問、「弟子孰爲好學、」孔子對曰「……」(先進6)
- ⑫ 齊景公問政於孔子、孔子對曰、「……」(顏淵11)
- ⑬ 季康子問政於孔子、孔子對曰、「……」(顏淵17)

⑭ 季康子患盜、問於孔子。孔子對曰、「……」(顏淵18)

⑮ 季康子問政於孔子曰、「……」、「孔子對曰、「……」(顏淵19)

⑯ 定公問、「一言而可以興邦、有諸」、「孔子對曰、「……」、「曰、「……」、「孔子對曰、「……」(子路15)

⑰ 南宮适問於孔子曰、「……」、「夫子不答、南宮适出、子曰、「……」(憲問6)

⑱ 子言衛靈公之無道、康子曰、「夫如是、奚而不喪」、「孔子對曰、「……」、「(憲問20)

⑲ 陳成子弑簡公、孔子沐浴而朝、告於哀公曰、「……」、「公曰、「……」、「孔子對曰、「……」、「孔子對曰、「……」(憲問22)

……、(憲問22)

⑳ 蘧伯玉使人於孔子。孔子與之坐而問焉曰、「……」、「對曰、「……」、「使者出、子曰、「使乎、使乎」(憲問26)

㉑ 微生畝謂孔子曰、「……」、「孔子對曰、「……」、「(憲問34)

㉒ 衛靈公問陳於孔子。孔子對曰、「……」、「明日遂行、在陳絕糧、從者病、莫能興、子路慍見曰、「……」、「

子曰、「……」、「(衛靈公1)

㉓ 季氏將伐顓臾、冉有・季路見於孔子曰、「……」、「孔子對曰、「……」、「冉有曰、「……」、「孔子對曰、「……」、「

冉有曰、「……」、「孔子對曰、「……」、「(季氏1)

㉔ 孔子曰、「天下有道、則禮樂征伐、自天子出、……」、「(季氏2)

㉕ 孔子曰、「祿之去公室五世矣、……」、「(季氏3)

㉖ 孔子曰、「益者三友、損者三友、……」、「(季氏4)

㉗ 孔子曰、「益者三樂、損者三樂、……」、「(季氏5)

㉘ 孔子曰、「侍於君子、有三愆、……」、「(季氏6)

②⑨ 孔子曰、「君子有三戒、……」(季氏 7)

③⑩ 孔子曰、「君子有三畏、……」(季氏 8)

③⑪ 孔子曰、「生而知之者上也、……」(季氏 9)

③⑫ 孔子曰、「君子有九思、……」(季氏 10)

③⑬ 孔子曰、「見善如不及、……」(季氏 11)

③⑭ 陽貨欲見孔子、……謂孔子曰、「……」孔子曰、「……」(陽貨 1)

③⑮ 子張問仁於孔子、孔子曰、「能行五者於天下爲仁矣、」請問之、曰、「恭・寬・信・敏・惠、……」(陽貨 6)

③⑯ 孺悲欲見孔子、孔子辭以疾……(陽貨 20)

③⑰ 微子去之、……孔子曰、「殷有三仁焉、」(微子 1)

③⑱ 齊景公待孔子曰、「……」曰、「……」孔子行、(微子 3)

③⑲ 齊人歸女樂、……孔子行、(微子 4)

④⑰ 楚狂接輿歌而過孔子曰、「……」孔子下欲與之言、……、(微子 5)

④⑱ 長沮・桀溺耦而耕、孔子過之、使子路問津焉、……夫子憮然曰、「……」(微子 6)

④⑲ 子張問於孔子曰、「……」子曰、「……」子張曰、「……」子曰、「……」子曰、「……」(堯曰 2)

今この四十二章について考えると、先ず第一に孔子が門人とはなくて政治家と問答した記事が極めて多い。

①は哀公と、④は定公と、⑤は哀公と、⑦は陳司敗と、⑪は季康子と、⑫は齊景公と、⑬⑭⑮は季康子と、⑯は定公と、⑰は季康子と、⑱は哀公と、⑳は蘧伯玉の使者と、すなわち使者を通じてではあるが蘧伯玉と、㉑は衛靈

公と、③は陽貨と、④は齊の景公との問答である。また②の「或ひと」は政治家として解する説もある。⁽³⁾③は問答ではないが季氏に對する孔子の發言であり、⑥は葉公と子路との問答を介してであるが、孔子の立場の表明である。要するに十六もしくは十七の章に及ぶ問答の相手と、③と⑥の發言の對象とは、すべて魯國および外國の君主と政治家とである。寡聞の及ぶところでは、論語における孔子の稱呼についての見解として、孔子と君主や大夫との公式の場の會見では、「子」と言わずに「孔子」と稱している、という説が從來存在しているが、上掲十八或いは十九の章に關する限り、或る程度まで妥當する見方である。ともかく、これ等政治家との會見では、孔子の弟子が誰もその場に立ち會っていない場合が大多數であつたと思われ、従つてこれ等の情報多くの孔子の弟子仲間から出た傳誦ではなく、政治家側から世間に漏れたか、或いは出所不明の噂話として世間に傳つた情報から出ていよう。そうだとすれば、世間では孔門内とは異なつて、「子」と言えば孔子にかぎるものではないから、「孔子」と明言したのであらう。これが論語の中で「孔子」という稱呼を用いている例の第一の場合である。

第二は、季氏篇十四章のうち、孔子の言行でない三章を除いて殘餘の十一章はすべて「子」と言わずに「孔子」と言っており、また微子篇十一篇のうち孔子の言行と關係のない四章を除いた殘餘の七章の中の五章までが、「子」と言わずに「孔子」と言い、ただ二章（微子篇78）だけは「子」が使われている。そこで季氏篇の十一の章および微子篇の五つの章の合計十六の章の「孔子」について考えてみると、私は嘗て考證したごとく季氏・微子二篇はいずれも齊で編集されたと見ている。私見によれば、下論の一部を占める齊で編集された部分は、概して魯で編集された諸篇よりは成立が晚く、當然、魯で成立した文獻の潤色と、魯に傳つた孔門以來の傳誦に對する補遺と、孔門外の世間に傳つた傳誦を集めて新たに補充することが、齊における論語編集の主要な事業であつたと思われる。してみれば齊で成立した季氏・微子の二篇に、孔門外の世間が傳えた傳誦が多く採用されて